



歩行距離 (精度は保証しません)	道路情報
A → B 1.1 km	公園内歩道歩き・道標あり。急坂階段あり。
B → C 0.6 km	一車線舗装道路車注意。道標なし。急坂なし。
C → D 0.7 km	急坂の舗装道路。車に注意。O地点道標なし。
くまそ広場周回 1.5 km	整備された公園歩道。道標あり。
D → C 0.7 km	急坂下り転ばないようにゆっくりと。
C → E 0.8 km	一車線舗装道路。急坂。道標なし。車に注意。
E → F 0.3 km	一車線舗装道路。急坂。道標なし。車に注意。
F → A 1.3 km	整備された用水路遊歩道。急坂。道標なし。
計 7.0 km	
標準歩行時間 (休憩含まない)	
2時間	



承認番号平17総第910号1/25000 高野 平成11年4月1日発行



美しい関之尾の紅葉



用水路伝承広場

■関之尾の滝

関之尾の大滝(幅40m、高さ18m)、女滝、男滝の3つの滝があります。大滝は滝百選に選ばれています。女滝、男滝は農業用水路のために先人たちが開削したものです。



■関之尾の滝甌穴

長さ600m、幅80mにわたる甌穴群は、世界でも類を見ない規模で国の天然記念物に指定されています。



田園空間整備事業都城地区

関之尾公園内は、宮崎県を代表する、歴史的に価値の高い用水路が3路線あります。田園空間整備事業では、老朽化した用水路を昔の石積み用水路に復元や公園内の農業用施設を結ぶ散策道の整備、用水路を利用した親水池、広場を整備しました。また各施設のコース道標、案内板を設置しました。

■前田用水路(明治34年(1901)完成/水路の長さ 7,045m 田のかんがい面積 278ha)

前田用水路は郷土の偉人、坂元源兵衛が計画した開田事業を前田正名が受け継ぎ完成させました。しかし完成までの道のりは苦難の連続で坂元源兵衛の優れた農業土木技術力なしでは完成しなかったと言われています。

■北前用水路(明治32年(1889)完成/水路の長さ 5,100m 田のかんがい面積 68ha)

郷土の偉人、坂元源兵衛がノミと斧で岩をくりぬき、苦難すえ完成させた水路です。女滝は落差を利用した取水口で男滝は余分な水を捨てる余水吐です。今、女滝と男滝は、農業用水以外に美しい水の落水が、来訪者に癒しと安らぎ与えています。

■南前用水路(貞享2年(1685)完成/水路の長さ 7,200m 田のかんがい面積 170ha)

前貞享2年(1685)に領主島津久理の命を受けた、家老川上久隆が監督し、関之尾の滝の上流300m右岸の岩山を掘り抜く難工事のすえ、完成したものです。明治19年(1886)に坂元源兵衛が開いた川崎用水路と統合延長され、その後の改修事業により現在のかんがい面積となりました。

■坂元源兵衛の生涯

この話し画像は、坂元源兵衛の曾孫で郷土史家の坂元徳郎先生の話しを掲載されている、ホームページ「九州山の案内」の管理人から承認を得て掲載しました。

坂元家の祖先である初代休八は、西岳町小川内に移住して荒地を開墾し田畑としました。また10町歩の牧場で牡馬50頭を飼育し、毎年4頭ほどを都城島津家の厩舎に買い上げられていました。馬は宮崎方面にも販売していました。

家の家格は大番頭格で都城城主に随行して江戸に参勤したこともあったそうです。休八には嫡男がいなかったため、西岳の名家吉原家から源右工門を養子に迎え家を継がせました。



3代目の休右工門は、経営手腕に優れ、金1万貫を都城島津家に献上し家格が一等あがり小番になり、行司役を仰せつかりました。休右工門は孫の源兵衛に行司役の仕事を見習わせ、この役目を源兵衛に譲りました。

4代目源右工門は都城島津家から開田掛かりを仰せつかり、田畑を開田しましたが、開田で財をなしたのですが、明治維新の版籍奉還によりほとんどの田畑が没収されました。源右工門は明治5年(1872)に亡くなり長男の源兵衛が継ぎました。

源兵衛は、天保8年(1840)に生まれました。源兵衛は開田掛かりを命じられよく働きました。開田掛かりで薩摩藩独特の水流し工法を学んだと思われます。

明治2年(1869)に源兵衛は優れた開田技術力と治世力を三島地頭に請われ、庄内町に移住しました。その時、田畑5反と宅地1反2畝を支給されました。明治4年(1872)里正兼戸長に任じられました。里正は郡長の命を受け庶務を行う属史です。戸長は今の助役です。

■写真上: 坂元源兵衛翁

源兵衛は明治20年頃(1887)から数々の開田事業に携わっています。源兵衛は上下水流用水路の掘り割り水路を完工した後は、62才で隠居し小川のほとりに隠棲し、水車などを考案して近隣農家の精米をして喜ばれています。源兵衛は三島通庸遺徳の建設に尽力し、大正8年(1879)にその生涯を閉じました。享年77才でした。

■写真下: 石川理紀之助翁(明治時代の農村指導者「俺は農民だ。農民が農民を助けなくて誰が助けると言うのだ」/秋田県農業の父)

石川理紀之助は前田正名から村づくりが進まないで、無償で指導に来てくれとの身勝手な手紙をもらいました。石川理紀之助は働かない村人に対して、自分で率先して働く姿を見せ指導しました。そのうち一人、二人と一生懸命働く村人が増え明るく豊かな村になりました。また夜学を開校したり預金を推奨したりしました。6ヶ月後の別れの朝、沢山の村人が見送り涙したそうです。今、平成8年、石川理紀之助の功績に対して銅像(山田町谷頭)を建立しています。

美しい田園風景と歴史的価値の高い用水路めぐり郷土史がわかるコースです。

※本マップ編集者は、その内容に責任を負いませんので、個人の責任で使用してください。

